

大学の空き教室を利用した無料塾

Free Afternoon School Project at Universities in Hachioji City

近藤良美¹⁾

指導教員 服部南見²⁾, 研究協力者 小宮位之³⁾, 植竹智央⁴⁾

- 1) 創価大学 文学部 人間学科 2) 創価大学 学士課程教育機構
3) 認定NPO法人 八王子つばめ塾 4) For Everyone Study

キーワード：貧困の世代間連鎖, 学校外教育, 大学進学, 無償提供, 市との連携

1. はじめに

八王子が学園都市であるという特色を生かした「大学の空き教室を利用した無料塾」を提案する。「貧困の世代間連鎖」と言われるように、教育、特に最終学歴は貧困の固定化に大きくかかわっている。例えば、一般的に高卒よりも大卒の方が給料が高いという傾向があり、それは子どもの教育水準（最終学歴など）にも影響する。

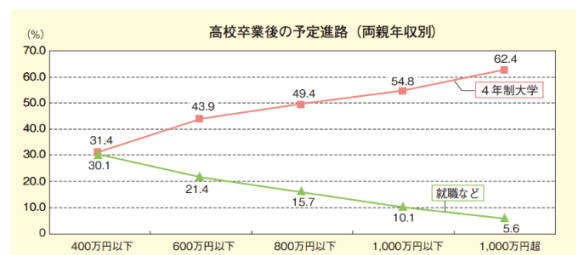
図1：貧困の世代間連鎖が生まれる流れ¹⁾



貧困の連鎖を断ち切るべく、近年では、世帯収入の少ない家庭の子どもが大学進学できるよう、給付型奨学金の拡充なども進んでいる。例えば筆者の通う創価大学では、主たる家計支持者の年収600万円未満を対象に、文系学部40万円、理工・看護学部50万円を90名に、20万円を計185名に秋学期に一括給付する返還不要の奨学金等がある²⁾。

このような支援は大学進学後の経済的負担を和らげる一方、大学進学に関わる格差は軽減されない。結果、家計に余裕のある家庭の子どもがより大学進学をする傾向がある。反対に、生活に余裕のない家庭の子どもは、学びたくても高校卒業後働き始めるしかないケースが多くなっている。

図2：高校卒業後の予定進路（両親年収別）³⁾



このような現状を打破するため、大学の空き教室における無料塾プロジェクトを提案する。

2. プロジェクト概要

本プロジェクトの概要は以下の通りである。

【場所】：八王子市にある大学・短期大学・高等専門学校の空き教室。状況に応じオンライン（要相談）も可。

➡大学（短大・高専）進学後のビジョンを中学生・高校生にとって身近なものとするため。

大学にとってもSDGsの地域貢献ができるだけ

¹⁾ 「子どもの貧困と教育格差」（日付なし）Chance for Children．参照：<https://cfc.or.jp/problem/> 閲覧日：2021年10月13日

²⁾ 大学独自の奨学金【返還不要の給付型】．創価大学ホームページ．参照：

<https://www.soka.ac.jp/campuslife/scholarship/within/> 閲覧日：2021年10月13日

³⁾ 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」（2007年9月）

でなく、出願者増加という利益が見込める。大学に実際に来て講師と直接コミュニケーションを取り信頼構築ができるメリットと、状況に応じオンラインでコストを削減するメリットを両立させる。

【日時イメージ】：毎週都合の良い平日の 16:30～20:00 の間で各人の都合の良い 1 時間～1 時間半。一人最大週 2 回の頻度。

➡生徒・学生双方にとって負担にならないよう、拘束時間は最大でも 1 時間半とした。

【講師】：教育に興味のある学生、(英会話として)英語圏からの留学生、ときおり時間のある大学教員も交える等。

➡大学生や留学生にとっても将来のキャリアに役立つようにする。研修では、本事業に参加する上での最低限のルールと簡単な指導テクニックを学ぶ。その後実際に講師をやってみて、困ったことがあれば随時相談していく。基本的には、少人数(1 講師につき生徒 3 人まで程度)で行う。大学教員が来た時には、専門家ならではの知識などを聞くこともできる

【対象生徒】：各大学近く(1 往復交通費 500 円圏内)に住み他の塾に通っていない中学生・高校生(「広報はちおうじ」、中学高校に掲示するポスターに募集情報・SNS の QR コードを掲載)

➡交通費が負担になりすぎないように設定。

【教材】：生徒が持ち込む学校の教科書、学生講師が過去に利用していた教材、大学図書館にある資料、大学がオープンキャンパスなどで提供している入試過去問題集等

➡教材費にお金がかからないように工夫。

【必要経費】：大学の SA・TA 雇用と同様に給与を支払う(時給 1100 円程度)場合は、学生一人につき(週 1 回 1 時間半のシフトの場合、1100 円×1.5 時間×4 回×12 か月)年間 79,800 円必要となる。1 大学に 10 名の学生講師を雇用する場合は、

年間予算 798,000 円となる。

学生に対する給与を与えるのが難しい場合は、①単位を付与(経費無料)②大学の購買で利用可能な買い物券を付与(ひと月 1,000 円程度など。1 大学に 10 名の学生講師を雇用する場合の 1 大学の年間予算は 120,000 円で済む)といった柔軟な方法も取れる。

➡学生講師の負担とならないよう、何等かの報酬を与えることが持続可能性を持つことになると考えている。

以上が、本プロジェクトの概要である。

3. 八王子市長に直接提案する意義

上述したように、大学には、空き教室を提供し無料塾を通じて地域貢献をするポテンシャルを大いに持っている。しかし本プロジェクトを迅速に実現するためには、八王子市長・市の事務局の皆さまのご協力が不可欠となる。

八王子市にある大学は私学が多いため、学生団体発の取り組みとなると、この動きが一部の大学にとどまってしまうかねない。また大学の空き教室を提供してもらうということは、現時点ではハードルが高い。しかし、市長の方から大学コンソーシアム八王子所属の高等教育機関に「このような取り組みを市全体として行っていこう」と呼び掛けてくだされば、上述したような無料塾を各大学で開催していく流れが作りやすい。実施の形式・主体をどうするかは各大学に委ねるが、その分市には「広報はちおうじ」への募集情報の掲載や市の中学高校にポスターを掲示・ターゲット層への連絡等を担っていただきたい。

4. まとめ

以上のように、大学の空き教室を利用した無料塾の取り組みを学園都市八王子市で行い中高生に大学を身近に感じてもらい進学に繋げることで、貧困の世代間連鎖を断ち切ることができ、関係者全員が利益を得ることができる。本プロジェクトを迅速かつ効果的に実行するには、市長はじめ市の事務局の皆さまのご協力が重要になってくる。